



# 東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

## ■総説

### 感染症

(2) 日和見感染症 (免疫抑制剤)・院内感染 ……………平井由児… 31- 40

## ■原著

Efficacy and Safety of Preoperative DCF Therapy for Resectable

Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus

(根治切除可能食道癌に対する術前DCF療法の有効性

および安全性の検討) ……………白井雄史・成宮孝祐・矢川陽介・

工藤健司・太田正穂・山本雅一… 41- 48

維持透析患者におけるERCP後偶発症の検討 ……………塩賀太郎・

清水京子・中村真一・白鳥敬子・徳重克年… 49- 54

## ■第81回東京女子医科大学学会総会

シンポジウム「グローバル社会における感染症」

序文……………遠藤弘良… 55

(1) グローバルな新興感染症の脅威……………押谷 仁… 56- 60

(2) グローバルに広がる熱帯病……………狩野繁之… 61- 66

(3) グローバルなトラベルにおける感染症対策……………濱田篤郎… 67- 72

## ■学会・研究会抄録

第32回吉岡弥生記念講演会 (第354回東京女子医科大学学会例会)

(平成28年5月23日) …………… 73- 74

2016

Vol.86 No.2

ISSN 0040-9022

東女医大誌

J Tokyo Wom Med Univ

86巻 2号 平成28年4月

東京女子医科大学学会

SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

# JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

## (TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 86 Number 2  
April 25, 2016  
ISSN 0040-9022

Society of Tokyo Women's Medical University  
8-1, Kawada-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-8666 Japan  
Tel: 81-3-3353-8111 (ext. 22314) E-mail: gakkai.bi@twmu.ac.jp

### Review

#### Infectious Diseases

- (2) Opportunistic Infection, Immunosuppressive Agents, Nosocomial Infection  
Yuji HIRAI ..... 31-40

### Originals

#### Efficacy and Safety of Preoperative DCF Therapy for Resectable Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus

Yuji SHIRAI, Kosuke NARUMIYA, Yosuke YAGAWA, Kenji KUDO,  
Masaho OTA, Masakazu YAMAMOTO. .... 41-48

#### Complications of Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography-related Procedures in Hemodialysis Patients

Taro SHIOGA, Kyoko SHIMIZU, Shinichi NAKAMURA,  
Keiko SHIRATORI, Katsutoshi TOKUSHIGE. .... 49-54

### The 81st Annual Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University Symposium "Globalization and Infectious Diseases in the 21st Century"

#### Preface for Globalization and Infectious Diseases in the 21st Century

Hiro Yoshi ENDO ..... 55

#### (1) Globalization and Emerging Infectious Diseases

Hitoshi OSHITANI. .... 56-60

#### (2) Neglected Tropical Diseases with Global Endemicity

Shigeyuki KANO ..... 61-66

#### (3) Preventive Measures for Infectious Disease in Overseas Travelers

Atsuo HAMADA. .... 67-72

### Proceeding

#### The 32nd Yoshioka Yayoi Memorial Lecture (The 354th Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University)(May 23, 2016) .....

73-74

計画性のあるアセスメント，適切な検体採取は必須である．すくなくとも高度医療機関においては炎症反応や白血球増加などを理由に臓器診断名の伴わない漫然とした抗菌薬投与が行われることのないよう，施設ごとのクオリティ維持が必要であり，余裕を持った業務内容や簡便に専門家に相談できる環境も併せた診療体制の構築が求められる．

開示すべき利益相反状態はない．

#### 文 献

- 1) 青木 眞：「レジデントのための感染症診療マニュアル第3版」，医学書院，東京（2015）
- 2) Salvana EM, Salata RA: Infectious complications associated with monoclonal antibodies and related small molecules. Clin Microbiol Rev **22** (2): 274–290, 2009
- 3) Klastersky J, Paesmans M, Rubenstein EB et al: The Multinational Association for Supportive Care in Cancer risk index: A multinational scoring system for identifying low-risk febrile neutropenic cancer patients. J Clin Oncol **18** (16): 3038–3051, 2002
- 4) Magill SS, Edwards JR, Bamberg W et al: Multistate point-prevalence survey of health care-associated infections. N Engl J Med **370** (13): 1198–1208, 2014
- 5) Weinstein MP, Towns ML, Quartey SM et al: The clinical significance of positive blood cultures in the 1990s: a prospective comprehensive evaluation of the microbiology, epidemiology, and outcome of bacteremia and fungemia in adults. Clin Infect Dis **24** (4): 584–602, 1997
- 6) O'Grady NP, Alexander M, Dellinger EP et al: Guidelines for the Prevention of Intravascular Catheter-Related Infections. Clin Infect Dis **35** (11): 1281–1307, 2002
- 7) Mermel LA, Allon M, Bouza E et al: Clinical Practice Guidelines for the Diagnosis and Management of Intravascular Catheter-Related Infection: 2009 Update by the Infectious Diseases Society of America. Clin Infect Dis **49**: 1–45, 2009

#### 感染症—掲載予定—

執筆者	所属	テーマ	掲載号
早野真史	国際環境・熱帯医学	1. 新しい輸入感染症（エボラ，デング熱など）	86 (1)
平井由児	順天堂大学医学部総合診療科	2. 日和見感染（免疫抑制剤など）・院内感染	86 (2)
江川裕人	消化器外科学	3. 移植に対する感染症	86 (3)
橋本和法	産婦人科学	4. 性感染症（HIV，HPV など）	86 (4)
岡部信彦	川崎市健康安全研究所	5. 国・自治体の感染対策	86 (5)
菊池 賢	感染症科	6. まとめ	86 (6)

## 第32回吉岡弥生記念講演会 (第354回東京女子医科大学学会例会)

日 時：平成28年5月23日（月）13：00～16：00

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

対 象：本会会員，本学学生・教職員，一般

（司会）幹事 佐藤麻子

会長 吉岡俊正

挨拶

平成28年度第55回吉岡弥生研究奨励賞授与式 13：00～13：15

多発性硬化症・視神経脊髄炎関連性疾患の

妊娠・出産の再発リスクとバイオマーカーの研究

神経内科学准教授 清水優子

Caenorhabditis elegans における cdc-42 の機能解析

生理学（第二）研究生 上原朋子

感染や酸による声帯肉芽の起こる確率について

麻酔科学助教 虻川有香子

平成27年度（第54回）吉岡弥生研究奨励賞受賞者研究発表 13：15～14：15

（座長）副会長 橋本悦子

1. 人工心肺使用の開心術における周術期の凝固・線溶機能が術後出血量に及ぼす影響

東医療センター麻酔科講師 市川順子

2. 内臓脂肪および皮下脂肪が腎機能に与える影響

—Fibroblast growth factor 21 (FGF21) との関連を含めて—

東医療センター内科助教 興野 藍

3. 当院における糸球体腎炎患者の可溶性ウロキナーゼ受容体濃度の検討

内科学（第四）助教 井野文美

第32回吉岡弥生記念講演 14：30～16：00

挨拶

理事長・学長 吉岡俊正

（座長）会長 吉岡俊正

弥生先生を語る

昭和30年本学卒業生 渥美英子先生

環境と建築

建築家・妹島和世建築設計事務所代表 妹島和世氏

### 1. 人工心肺使用の開心術における周術期の凝固・線溶機能が術後出血量に及ぼす影響

（東医療センター麻酔科）

市川順子

〔目的〕心臓外科手術における体外循環の使用は、希釈性変化、血小板機能異常、凝固・線溶反応の亢進を伴いやすく、血液製剤使用率も高くなる。人工心肺中の抗凝固療法として使用するヘパリンは、トロンビン活性や凝固因子の消耗性低下を防ぎ、術後出血量にも影響するとされる。そこで、周術期の凝固・線溶状態を測定し、人工心肺使用下の開心術後出血量との関連を前向きに検討

した。〔方法〕凝固系に問題がない人工心肺使用の開心術症例86例を前向きに検討した。手術室入室後、退室前における血算、血液凝固・線溶機能、人工心肺中の抗Xa活性による血漿ヘパリン濃度を測定した。患者背景、大動脈遮断時間、人工心肺時間、周術期の出血量、血液製剤使用量なども含めSpearman順位相関係数を用いて術後出血の予測因子の独立性を検討し、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。〔結果〕術後24時間の出血量は $414.4 \pm 348.8$  mlであり、術後出血量に影響する因子として人工心肺時間、大動脈遮断時間、入室後の血小板

## 雑 報

### ○編集担当幹事会

日時 平成 28 年 1 月 6 日 (水) 17:30~

場所 総合外来センター 5 階 小会議室

議題 第 86 巻掲載シリーズ, 第 87 巻掲載シリーズ, 今後の本誌発行形態ならびに J-STAGE 登録に参加か否か, 基礎系教室研究発表会からの抄録の取り扱い

### ○第 353 回例会

日時 平成 28 年 2 月 27 日 (土) 13:00~18:30

場所 総合外来センター 5 階 大会議室

次第 平成 27 年度佐竹高子研究奨励賞・山川寿子研究奨励賞・中山恒明研究奨励賞授与式, 平成 26 年度佐竹高子研究奨励賞・山川寿子研究奨励賞受賞者研究発表, 第 10 回研修医症例報告会

## 編集後記

本誌の大きな意義はどこにあるのか, それは基礎医学から臨床医学, 社会医学までの広範囲をカバーする総合医学雑誌であることであろう。そのため編集担当幹事も各分野の第一線で活躍されている豊富な陣容から成り立っている。領域別あるいは診療科別のジャーナルでは, 他領域の医師からの意見が査読や編集に反映されることは稀である。

そうした意見が反映された論文の内容は厚みを増

し, 質は向上する。日ごろ自身の分野以外の論文に目を通す機会が乏しいのが通常である読者にとっても, 他領域, 分野での動向を本誌の通読によって伺い知ることができる。医師としての素養を深めるまたとない機会を提供してくれる媒体であるとも言えよう。

また若手医師にとっては, 日ごろの臨床の中で経験した価値のある症例報告を論文化する登竜門的な機会となろう。症例数を増やした臨床研究をいかに論文化するかをじっくりと学ぶ場ともなる。さらには, 精魂を込めてなした研究をまとめ上げ, 学位論文の掲載の場とするという意義もある。そうした修練の場として本誌を十二分に活用し, 一流誌と言われる国際的なジャーナルへの掲載を目指すのもよいであろう。そのためには, 本誌への投稿という修練の段階で英文論文の執筆を経験しておくことをお勧めしたい。和文論文を英訳するような姿勢では決してよい論文とはならない。始めから英文で書くことにより, 日本語のあいまいな表現が使用できないため, むしろ和文論文よりもより論理的な論文構成となる可能性がある。英文で格調高い論文を書くことができないのは英語を母国語としない我々には仕方のないことであるが, 別に格調高い名文を目指す必要はない。和文論文的な発想で英文論文を書こうとする際に, そもそも論旨構成の緻密さが欠けていることに何度も気付かされた経験がある。

重層的な利用が可能である本誌の存在意義が薄れることはないと考える。

(2016. 3, 坂元 薫)

編集担当幹事: 阿部光一郎	青見茂之	江川裕人○	湧之上昌平	萩原誠久	林 和彦
檜垣祐子	平澤恭子	石田英樹	神尾孝子	糟谷英俊	木林和彦
松井英雄	南家由紀	野中 学	斎藤加代子	坂元 薫○	櫻井裕之
澤田達男◎	篠崎和美	杉原茂孝	玉置 淳	田中淳司	谷口敦夫
徳重克年	内田啓子	内堀安子	山口直人		

(ABC 順, ◎幹事長, ○副幹事長)

東京女子医科大学雑誌 86 巻 2 号: 平成 28 年 4 月 25 日発行 (偶数月発行)

Journal of Tokyo Women's Medical University Vol. 86 No. 2: April 25, 2016

発行者: 吉岡俊正

発行所: 東京女子医科大学学会

事務局: 〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学 中央校舎 3 階 学会室

Tel & Fax: 03-5269-7403/E-mail: gakkai.bi@twmu.ac.jp

購読料: 年会費 6,000 円に含む。1 冊定価 1,000 円 (税・送料共)

振込先: (銀行振込) 東京女子医科大学学会 会長 吉岡俊正

三菱東京 UFJ 銀行 東京女子医大出張所 普通 3643723

(郵便振替) 東京女子医科大学学会 00150-4-4342

印刷: 株式会社杏林舎 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10 Tel: 03-3910-4311/Fax: 03-3949-0230

広告扱い: 日本医学広告社 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8

Tel: 03-5226-2791/Fax: 03-5226-0195

\* 本誌の内容を無断で複写・複製すると, 著作権・出版権の侵害になりますのでご注意ください。

## 東京女子医科大学雑誌投稿規定（平成 27 年 10 月改訂）

1. **投稿資格**：投稿は共著者も含め本学会員に限る。但し、本学に籍のない共著者は会員であるかを問わない。また、準会員のみでは投稿できない。
2. **原稿種類**：投稿内容は原著、総説、報告、抄録、などとする。いずれも未発表のものに限る。ただし例外として、他誌に発表されたものについて、一定の要件を満たし、編集担当幹事会が認めた場合は二次出版（secondary publication）を認める。要件はホームページ「二次出版に関するお知らせ」参照のこと。
3. **倫理**：人を対象とした論文は、東京女子医科大学倫理委員会規程ならびに遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会規程に則って行われた研究であり、また動物を用いた研究は東京女子医科大学動物実験規程を遵守して行われた研究でなければならない。なお、本学以外で行われた研究の場合は、これに準ずるものとする。
4. **採否・掲載順**：原稿の採否、掲載順は編集担当幹事会において決定する。受理した原稿は原則として返却しない。
5. **著作権・版權**：本誌に採用された場合、著作権は本学会に委譲され、版權は本学会に帰属する。
6. **転載・引用**：既出版の図表を転載・引用する場合は必ず出典を明示する。その際、著作権の所有者の転載許可を必要とする。
7. **依頼原稿**：総説は原則として編集担当幹事会の依頼によるものとし、その著者は本学会員に限定しない。掲載料ならびに別刷 50 部までを無料とする。
8. **抄録**：編集担当幹事会が必要と認めた学術集会の抄録その他に関するものは有料で掲載することができる。本学会が認定した分科会の場合は刷上り 2 頁まで無料とする。
9. **臨時増刊**：依頼により臨時に特別号を発行することができる。費用は依頼者の全額負担とする。
10. **料金**：掲載料は普通紙で、和英論文とも刷上り原著・総説は 4 頁、報告は 2 頁まで無料、超過 1 頁につき 5,000 円とする。別刷は 50 部単位で表紙に明記し、実費とする。
11. **投稿締切**：原則として偶数月 7 日を締切とする。
12. **提出**：原稿 3 部、投稿申込書、チェックシート、電子媒体（USB など）を提出する。英文論文は英文校閲証明書も提出する。投稿申込書は主任教授または指導者の承認、共著者の同意、著作権の委譲に関して証明したもの。
13. **校正**：初校・再校とも著者校正を原則とする。大幅な改変は認めない。
14. **原稿枚数の上限**  
原著・総説は刷上り 10 頁（図表含む）程度、図表 10 点程度とする。報告は刷上り 6 頁（図表含む）程度、図表 5～6 点程度とする。
15. **原稿の書き方**：
  - 1) **書式**：原稿は A4 判に横書きとし、上下左右余白・行間を適宜とり、本文最初の頁に文字数×行数の設定を明記する。
  - 2) **表紙**：表題、所属、主任または指導者氏名、著者氏名（フリガナ）、英文表題、ローマ字著者名（名・姓の順、姓は大文字）、英文所属、著者連絡先を書く。
  - 3) **要旨**：和英論文とも、和文要旨（800 字以内）、英文要旨（200 語以内、英単語 5 個以内のキーワード）を添える。
  - 4) 英文論文は本文・英文要旨・図表およびその説明の英文校閲を受け、その証明を添付する。
  - 5) **構成**：原則として、緒言、対象および方法、結果、考察、結論、利益相反、文献、図の表題と説明、図、表、の順とする。
  - 6) **図(写真)・表**：図表およびその説明は、和英論文とも英語表記とする。図はそのまま印刷できる明瞭なものとし、修飾（立体や網掛けなど）しない。図番号を明記する。図の表題と説明は別紙に一括する。カラー写真・アート紙使用はその旨明記し、トレースを要する場合もともに実費を徴収する。表は横線のみで構成し、表題・説明を含めたものとする。
  - 7) **用語・単位**：当用漢字、現代かなづかいを用いる。専門用語は学会で統一されたものを用い、略語は初出時に正式用語またはスペルを記載する。度量衡の単位、記号は国際単位系（SI）を原則とする。数字と単位の間は、℃ と % を除き、1 スペースあける。
  - 8) **文献**：本文表出順に番号を付け、次の形式で記載する。著者は 3 名まで記載し、外国人名は姓名の順とする。雑誌名の略記は医学中央雑誌および Medline に従う。  
**雑誌**；  
川村雅枝，重本六男，森吉百合子ほか：ラット cysteamine 十二指腸潰瘍の発生機序について。東女医大誌 56：668-676, 1986  
Quimby GF, Bonnice CA, Burnstein SH et al: Active smoking depresses prostaglandine synthesis in human-gastric mucosa. Ann Intern Med 104: 616-619, 1986  
Jurgens HA, Johnson RW: Dysregulated neuronal-microglial cross-talk during aging, stress and inflammation. Exp Neurol 2010, doi: 10.1016/j.expneurol.2010.11.014, Published online (accessed on Aug 28, 2010)  
**単行本**；  
城所良明：神経筋接合の形成。「筋発生の細胞生物学」（小沢英二郎，嶋田 裕，真崎知生編），pp259-282，学会出版センター，東京（1983）  
Kahn CR, Roth J: Insulin receptors in disease states. In Hormone-Receptor Interaction (Levy GS ed), pp1-29, Marcel Dekker, New York (1981)  
Bargman JM, Skorecki K: Part 13. Disorders of the Kidney and Urinary Tract. Chapter 280. Chronic Kidney Disease. In Harrison's Online. The McGraw-Hill Companies, New York. <http://www.accessmedicine.com/content.aspx?aid=9130075> (accessed on Sep 5, 2011)
  16. **電子媒体**：USB などに原稿と図表のファイルを保存し、ソフト（version）筆頭著者名、所属を記す。
  17. **連絡先**：投稿、編集、印刷に関する問い合わせ等はすべて下記宛とする。  
〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1  
東京女子医科大学 中央校舎 3 階 学会室  
Tel・代表：03-3353-8111（内線 22314）  
Tel & Fax：03-5269-7403（直通）  
E-mail address：gakkai.bi@twmu.ac.jp  
URL：http://www.twmu.ac.jp/gakkai/

## 投稿申込書

平成 年 月 日

東京女子医科大学学会 編集担当幹事長 殿

下記論文を貴誌に投稿いたします。この論文は他誌に未発表であり、また投稿中でもありません。  
採用された場合には、この論文の著作権を東京女子医科大学学会に委譲すること、当学会と契約を交  
わした Web サイトへ全文または要旨を掲載することに同意いたします。

なお、本論文の内容に関しては、著者（ら）が一切の責任を負います。

署 名

論文表題

署 名

著者全員の署名が必要です。欄が足りない場合はコピーして2枚提出して下さい。

①

年 月 日

②

年 月 日

③

年 月 日

④

年 月 日

⑤

年 月 日

⑥

年 月 日

原稿種類

☐に✓または×を入れて下さい。☐原著（☐学位申請論文） ☐総説 ☐報告 ☐ほか（ ）

推 薦

原著・学位申請論文の場合、主任教授または指導者の署名が必要です。

署名

所属

連 絡 先

☐医局・教室 ☐出張先 ☐自宅

氏名

所属

住所

〒

Tel

Fax

E-mail Address

請求書宛名

☐筆頭著者名 ☐医局・教室名 ☐ほか（ ）

請求書送付先

☐医局・教室 ☐出張先 ☐自宅

氏名

所属

住所

〒

利益相反

☐なし ☐あり

IR\*登録

☐同意しない

※IR とは「東京女子医科大学学術リポジトリ Twinkle」  
(<http://ir.twmu.ac.jp/dspace/>) のこと。

IRには全文を登録します。

☒のない場合は同意していただいたものといたします。

学会室記入欄：

論文受付日 年 月 日

論文受理日 年 月 日

受付番号

## 東京女子医科大学雑誌～チェックシート～

平成 25 年 9 月

以下の□にすべてチェックが入った状態で投稿してください

### 提出書類

☐原稿 3 部

☐投稿申込書

＜原著の場合＞

☐主任教授または指導者の署名

＜英文論文の場合＞

☐英文校閲証明書

☐電子媒体

☐表紙・本文（倫理審査、利益相反を含む）・文献を「本文」ファイルとする

☐英文要旨を「英文要旨」ファイルとする

☐和文要旨を「和文要旨」ファイルとする

☐図・写真の説明を「図説」ファイルとする

☐図・写真または表を「図」「表」ファイルとする

☐チェックシート（本紙）

### 原稿書式

☐A4 判用紙

☐行間 1.5 行程度あける

☐ページ番号を付す

☐小見出しの番号は、1. → 1) → (1) → ①の順で使用する

☐図表箇所を原稿右余白に記す

☐略称を用いる場合、初出時に定義する

☐修飾文字（イタリック、上付き、下付き、プライム等）を指定する

☐原稿枚数の上限内である

＜原著と総説の場合＞

☐刷上り頁数（図表含む）10 頁

☐図表 10 点

＜報告の場合＞

☐刷上り頁数（図表含む）6 頁

☐図表 5～6 点

### 表紙

☐A4 判用紙 1 枚におさめる

＜和文論文の場合＞

☐原稿の種類 ※原著／総説／報告など

☐和文タイトル

☐和文所属

☐著者氏名（フリガナ）

☐英文タイトル

☐ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字

☐英文所属

＜英文論文の場合＞

☐原稿の種類 ※Original／Review／Report など

☐英文タイトル

☐ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字

☐英文所属

### 英文要旨

☐A4 判用紙 1 枚におさめる

☐英文タイトル

☐ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字

☐英文所属

☐本文 200 words 程度

☐Key Words（英単語 5 個以内）

### 和文要旨

☐A4 判用紙 1 枚におさめる

☐和文タイトル

☐和文所属

☐著者氏名（フリガナ）

☐本文 800 文字程度

（裏へ）



## 本文構成

### <総説の場合>

- ☐ はじめに Introduction
- ☐ おわりに Conclusion
- ☐ 文献 Reference

### <原著の場合>

- ☐ 緒言 Introduction
- ☐ 対象および方法 Materials and Methods
- ☐ 結果 Results
- ☐ 考察 Discussion
- ☐ 結論 Conclusion
- ☐ 文献 Reference

### <報告の場合>

- ☐ 緒言 Introduction
- ☐ 症例 Case Report
  - ☐ 患者 Patient
  - ☐ 主訴 Chief complaint
  - ☐ 既往歴 History of past illness
  - ☐ 現病歴 History of present illness
  - ☐ 血液生化学検査 Blood gases など
- ☐ 結果 Results
- ☐ 考察 Discussion
- ☐ 結論 Conclusion
- ☐ 文献 Reference

**倫理審査** ※該当する場合は承認を得たことを“対象および方法”で記載してください

☐ 承認済

☐ 非該当

**利益相反** ※文献の前に記載してください

### <ない場合>

- ☐ 「開示すべき利益相反状態はない。」「The author(s) indicated no conflicts of interest.」などと記載する

### <ある場合>

- ☐ 「この研究の〇%は×××からの支援により行った。」「About 〇% of this study was supported by ×××.」などと記載する

## 文献

☐ 文献引用箇所を本文中に明記する

☐ 文献番号は本文表出順とする

☐ 著者名は姓・名順とする

☐ 省略を表すピリオドは不要

☐ 雑誌名は略記する

☐ 終頁は省略しない (例) 正: 234-236 誤: 234-6

☐ その他、記述法が正しい

### <雑誌の場合>

著者名3名+ほか または et al: 論文のタイトル. 雑誌名の略記 巻(号): 始頁-終頁, 発行年

### <著書(和文)の場合>

著者名3名+ほか: 引用章タイトル. 「書名」(編集・監修者名), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

### <著書(英文)の場合>

著者名3名+et al: 引用章タイトル. In 書名(編集・監修者名 ed), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

## 図(写真)の説明

☐ タイトルがある

☐ 説明がある

☐ タイトルおよび説明を英語表記とする

## 図(写真)

☐ 図・写真中の単語を英語表記とする

☐ 文字サイズ・フォントを考慮して作成する

☐ 図番号を明記する ※写真は図とする

☐ 希望する印刷法(カラーまたはモノクロ)を明記する

☐ 手札サイズの写真はA4判用紙に貼る(四隅のみ糊付け)

☐ 同じ図番号の場合は出来るだけ同じ用紙におさめる

☐ カラー印刷希望の場合は出来るだけ1頁におさめる ※出来上り1頁60,000円

### <転載の場合>

☐ 出典元情報を明記する

☐ 転載許諾を得る ※転載許諾書をご提出下さい

## 表

☐ タイトルがある

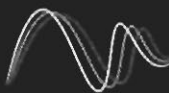
☐ 説明がある

☐ 表中の単語、タイトルおよび説明を英語表記とする

署名



オレキシン受容体拮抗薬・不眠症治療薬



**ベルソムラ錠** 15mg  
20mg

スボレキサント錠

Belsomra

習慣性医薬品（注意＝習慣性あり）

処方箋医薬品（注意＝医師等の処方箋により使用すること）

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等の詳細につきましては添付文書をご参照ください。



**MSD**

製造販売元【資料請求先】

**MSD株式会社**

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア  
<http://www.msd.co.jp/>

【MSDカスタマーサポートセンター】

医療関係者の方：フリーダイヤル 0120-024-961

〈受付時間〉9:00-17:30（土日祝日・当社休日を除く）

BEL15AD090-0720



# 学術に関することは、お任せください。

わたしたちは60年前より学協会様とともに学術に携わってきました。

学術誌の制作・印刷から始まり、学協会様のニーズとともにサービスの幅を広げ、時代とともに成長し、日本医師会雑誌、日本内科学会雑誌を始め60以上もの学術ジャーナル出版のお手伝いをさせていただいているのは、誇りでもあり自信でもあります。また、情報発信のサポートとして行なっているホームページの制作・運営サービスも120サイトを超え、ご好評を頂いています。お客様の声から生まれた数多くのサービス、そこから得たノウハウは、きっとみなさまのお役に立てるはずです。

## 学術ジャーナル

- 編集事務支援 (オンライン投稿・査読システム)
- 各種オンラインジャーナルへの公開対応
- 電子書籍サービス ● XML・ePUB作成
- 印刷・少数印刷対応
- 制作・装丁・レイアウトデザイン

## 学術集会・イベント

- 学術集会・イベント運営サポート  
(庶務・財務、広報、演題登録業務、当日運営サポート)
- 抄録データ管理・情報処理・編集
- プログラム集・抄録集制作・印刷
- 各種デザイン  
(ロゴ、ポスター、ホームページ、印刷物全般、ノベルティ他)
- 学術集会用演題検索システム (Web・アプリ)

## 学会ホームページ

- 企画・設計 ● デザイン・制作
- 更新・運営管理 ● サーバーホスティング
- メール配信 ● Webアプリ・システム開発

## 学会事務支援

- 会員管理 ● 会費管理 ● 庶務業務 ● 会計業務
- 資格認定試験運営 ● アンケート集計・管理

## オンライン投稿・査読システム



世界6,000誌以上のジャーナルで採用されているThomson Reuters社の国内代理店です。

## 電子書籍サービス



学会誌やガイドライン等、学術研究に特化した「学術専門の電子書籍サービス」です。

## 会員管理システム



学協会サポートで積み上げてきたノウハウを詰め込んだ会員管理システムの無償版です。

## 演題検索システム



PC・スマートフォンで、演題・セッションの検索や、参加プログラムの登録ができるサービスです。

## オンラインPDF校正システム



コスト削減、スピードアップ...学術ジャーナルならではの「著者校正」に強いサービスです。

## オンラインストア



学術に関わる書籍やアイテムを、インターネットを介して販売するオンラインストアです。



株式会社 杏林舎

<http://www.kyorin.co.jp/>

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10

TEL 03-3910-4311 E-mail sales@kyorin.co.jp

杏林舎

検索



Kyorin 



120吸入用

新発売



喘息治療配合剤 処方せん医薬品<sup>注</sup>

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については添付文書等をご参照下さい。

**フルティフォーム**

50エアゾール 56吸入用・120吸入用 125エアゾール 56吸入用・120吸入用

Flutiform<sup>®</sup> Aerosol

フルチカゾンプロピオン酸エステル/ホルモテロールフマル酸塩水和物吸入剤  
注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

新しい喘息治療配合剤フルティフォームのすべてがわかる医療従事者向けWebサイト「フルティフォーム.jp」をご覧ください。

<http://www.flutiform.jp>

**杏林製薬株式会社**

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地  
〈資料請求先:くすり情報センター〉

作成年月:2014.12

A型ボツリヌス毒素製剤

薬価基準収載

医薬 生物由来製品 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

**ボトックス**<sup>®</sup> 注用 **50単位**  
**100単位**  
BOTOX<sup>®</sup> for injection

※「効能・効果」「用法・用量」「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

**グラクソ・スミスクライン株式会社**

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15

グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先

TEL: ☎0120-561-703 (9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)

FAX: ☎0120-561-047 (24時間受付)



2015年1月作成

骨粗鬆症治療剤(活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤)  
創薬 処方箋医薬品<sup>(2)</sup>

薬価基準収載

**エディロール<sup>®</sup> カプセル** 0.5 $\mu$ g 0.75 $\mu$ g  
**EDIROL<sup>®</sup>**

エルデカルシトールカプセル

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

©中外製薬株式会社登録商標

※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等詳細については、添付文書をご参照ください。



製造販売元 [資料請求先]



**中外製薬株式会社**

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

Roche ロシュ グループ



発売 [資料請求先]

**大正富山医薬品株式会社**

〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1

2015年2月作成



選択的直接作用型Xa因子阻害剤

**イグザレルト<sup>®</sup>錠** 10mg 15mg  
**細粒分包 10mg 15mg**

**Xarelto<sup>®</sup> (リバーロキサバン)**

処方箋医薬品 (注意－医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

**効能・効果  
追加**

深部静脈血栓症及び  
肺血栓症

※深部静脈血栓症及び肺血栓症の  
治療及び再発抑制

**剤形追加  
新発売**

**細粒**

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては、  
製品添付文書をご参照ください。



資料請求先

**バイエル薬品株式会社**

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

<http://www.bayer.co.jp/byl>

2015年12月作成



免疫抑制剤 (mTOR阻害剤) 薬価基準収載

 **サーティカン錠** 0.25mg  
0.5mg  
0.75mg


劇薬 処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

**CERTICAN®** エベロリムス錠

サーティカンホームページ <http://www.certican.jp>

薬価基準収載

急性拒絶反応抑制剤 (抗CD25モノクローナル抗体)

 **シムレクト® 静注用 20mg**  
**シムレクト® 小児用 静注用 10mg**

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

**SIMULECT®** バシリキシマブ (遺伝子組換え) 静注用

シムレクトホームページ <http://www.simulect.jp>

免疫抑制剤 (カルシニューリンインヒビター) 薬価基準収載

 **ネオーラル® 10・25・50mgカプセル**  
**内用液10%**

劇薬 処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

**Neoral®** シクロスポリン製剤

ネオーラルホームページ <http://www.neoral.jp>

効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 〈資料請求先〉  
**ノバルティス ファーマ株式会社**  
東京都港区虎ノ門1-23-1 〒105-6333

**NOVARTIS DIRECT** 0120-003-293  
受付時間：月～金 9:00～17:30  
(祝日及び当休日を除く)  
[www.novartis.co.jp](http://www.novartis.co.jp)